



三春中学校だより

第7号

発行日 令和元年5月29日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【大切にしたいこと！ ～1年生、2年生、3年生、先生も一緒になって後かたづけします。～】

5月15日(水)に行われた田村支部陸上競技大会、明日29日(水)・30日(木)に行われる総合大会と、特設も含めこれまで部活動に心血を注いできた生徒、先生方にとって、とても大切な時期を迎えています。



競技力を向上させ、その競技の専門性を高めていくことはいくらでも素晴らしいことだと思います。そんな時、ふっと、グラウンドを眺めると、ドラムコードを巻き上げる先生、とんぼで練習会場を

ならす生徒さんが目にとまりました。これも部活動においてとても大切にしなければならないことだと強く感じました。学校教育の中で行う部活動は、顧問も選手のみならずその競技の専門性や競技力を向上させようとするさまざまな勉強をし、研修会や練習会に顧問も選手も参加して勉強しています。ただ、それだけではありません。競技者としての学びと共に、社会で自立した存在として自らの人生を胸を張って、他と協調しながら共に歩んでいけるようにという学びも大切にしています。また、自分の役割を考え行動することができたり、他のために自分のできることをやってあげたり、自分に負けそうになっている人に励ましの言葉をかけてやったりと、いわゆる『人として』の部分も大切な学びとして指導しています。そのような点にも心を込めて勉強している三春中学校のメンバーたちです。

【部活動の少し苦い思い出として。 ～部活動を通して学ぶこととは。～】

どの部活動も大会や練習試合をたくさんこなしたゴールデンウィークだったかだと思います。保護者のみなさまには、送迎や応援をしていただきありがとうございました。きっと子どもたちも満足していく、大会までの目標が再確認できる機会となったことだと思います。私も福島県で教員を始めてから20年間、幸いにして、バスケットボール部の顧問一筋に取り組んでくることができました。県の優勝チームと戦い全く歯がたがわず子どもたちとどうしたらいいのか頭を抱え悩んだり、優勝の味を何度も子どもたちと共に味わわせてもらったりと、思い出に残る部活動をさせていただきました。



改めて振り返ると、子どもたちから、コーチとして、顧問として、教師として教えられ続けた日々であったように思います。部員の子どもたちにかけた言葉のほとんどが、練習に臨む姿勢や学んだことがそれから生きていく上でどのように役立つのかということだったような気がします。

ある日の練習試合を今でも覚えています。苦い思い出です。当時はまだゾーンディフェンスという守り方が認められていて、チームは攻める側でした。守る側は食パンの形をしたゴールエリアの中を5人で固めていました。ゴールからいちばん遠くにいるチームリーダーの選手はドリブルやパスをして中に切れ込むチャンスをうかがっていました。ご存じでしょうがバスケットボールには一度の攻めに当時は30秒という制限時間があり、それが過ぎるとオーバータイムで相手ボールになってしまいます。そのチームリーダーの選手はいつになっても切れ込もうともしませんでした。ゾーンの外側でどうしていいかわからずそのままパスを回しているだけでした。「行きなさい。」「ドリブルで中に切れ込んでいきなさい。」の指示にも反応できませんでした。仕方なくそのチームリーダーの選手を交替させ、どうして行かないか尋ねると、「怖くて入れません。行っても駄目です。」という答えでした。その選手に向かって、「うまくいかないことから逃げているは何も変わらない。」「駄目だとやる前から諦めてしまっても何も生まれない。逃げずにぶつかっていかなくてはならない時もある。そうするからこそ次の手が見えてくる。」「お前にはその力がある。」と。そのチームリーダーにはそんな生き方もあるということを知ってほしかったのです。大会が終わってからその選手は、「駄目でもやらなければならない時があるんですね。」と言ってくれましたが、苦い思い出として今もはっきり覚えています。

【授業参観、PTA総会、学年懇談会、部活動保護者、お世話になりました！】

4月20日(日)の授業参観等の実施に際しましては、ご多用の中、三春中学校においでいただきありがとうございました。1年生の保護者のみなさん、三春中学校の制服を身につけた中学生としてのお子様の姿はいかがでしたでしょうか。中学校の生活に少しでも早く慣れようと一生懸命がんばっています。2・3年生の保護者のみなさん、それぞれの学年に進級したお子様の様子はいかがでしたでしょうか。後輩から信頼され、卒業生に代わり、三春中学校をさらに発展させていこうととてもがんばっています。それぞれの授業や発表、がんばって準備していましたよ。また、PTA総会へのご

参加もありがとうございました。三春中学校の強力な後援者として、連携を図りつつ、子どもたちの健全育成にとともに取り組んでまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。



【元号が改まりました！ ～平成から令和へ。引き続き、よろしくお願いいたします。～】



連休中の5月1日（水）、校庭の掲揚台には、校旗と国旗がはためいていました。

元号が平成から令和に改まりました。“人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ”という意味が込められた、日本最古の歌集である万葉集からの引用だそうです。その歌数4,500余首、天皇から防人、農民まで、さまざまな人々の声を大切にされた歌集からの出典は、これまでも、そして、これからも、国民一人ひとりのさまざまな声を大切にしていこうという民主主義国家日本の精神を大切にしたいものなのではないでしょうか。

内閣総理大臣談話の中に、「悠久の歴史と薫り高さ文化、四季折々の美しい自然。こうした日本の国柄を、しっかりと次の時代へと引き継いでいく。厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き

誇る梅の花のように、一人ひとりの日本人が、明日への希望と共に、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたい、との願いを込め、『令和』に決定いたしました。文化を育み、自然の美しさを愛でることができる平和の日々に、心から感謝の念を抱きながら、希望に満ちあふれた新しい時代を、国民のみなさまと共に切り拓いていく」という記述どおりの三春中学校となるよう努めてまいります。

【『英検』より“奨励賞”をいただきました！

～これまでの三春中学校の歩みの成果です。～

これまで、三春町より補助をいただきながら挑戦してきた漢検と英検。子どもたちの可能性を引き出し、挑戦することをとおして、豊かな学びにつなげていこうと取り組んでまいりました。

先日、日本英語検定協会から“奨励賞”の賞状をいただきました。これまで三春中学校の先輩たちが、日頃の学業の傍ら続けてきた英検への挑戦の成果に他なりません。

賞状には、三春中学校の英検への挑戦が、英語教育の充実・進展に多大な成果をあげたと日本語で書いてありました。

これからも、自らの可能性を信じ、失敗を恐れず、たくましくさまざまな取組に積極的に挑戦できる三春中学校のみなさんであってほしいと思います。これからもがんばりましょう。



【安全運行に努めていただいています！ ～スクールバス同乗記。～】

5月13日（月）から21日にかけて、新たなコースとなった5コースのスクールバスに同乗させていただき、各コースの安全や交通状況等について実際に同乗して確認してきました。

各バス停では、子どもたちが安全に気をつけ静かに並んで待っていましたし、車内でも公共の交通機関という意識をもって明るく静かに乗せていただいています。

また、運転手さんたちは、6時前には出勤し、バスの安全点検をし、一般のみなさんを駅まで貸走で送り届けた後に、スクールバスとして運行してくださっているということでした。細い道や交通量の多い道もありましたが、運転手さんは安全最優先で快適に運転してくださっていました。

今後も運転会社さんと連携を図りながら、安全な登下校に努めてまいります。

